

市議会だより 三郷市議会議員

『夏号』
Vol.24

所属会派：21世紀クラブ



えい いずみ

加藤 英泉

皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。初当選以来、8年間の議員生活を経験。国政から地方まで議員も様々で、真摯に政治に取り組む人、私利私欲にうつつを抜かす人、何のために議員をやっているのか訳の解らない人など。私は議員として大事なことは、何よりも「市民目線で」、市民の想いを市政に、

市民の知恵を市政に届けること。これが基本姿勢だと改めて実感。ぶれない保守改革派として、又、しがらみのない議会人として真摯に使命を全うして参ります。市議の役目は市政を評議すること。そして、目指すは『笑顔あふれるふるさと三郷』。住み続けたいまちに、さらに前進しましょう。

三郷市議会議員選挙（7月11日投票日）出陣式のご案内

7月4日（日）午後1時30分～ 三郷駅南口ロータリー
選挙事務所：三郷駅南口 KTT2ビル3階（1階やきとり屋&イタリアン）

お詫び 本来ですと、玄関前までお伺いして、ご挨拶を申し述べさせて頂くところですが、コロナウイルス感染防止のため、ポスティングで失礼させて頂くことをご理解願います。

《令和3年(2021)6月定例議会報告》

■会期：5月31日～6月11日。一般会計補正予算、約5億2千3百万円。主な歳出として、
■ひとり親世帯以外の世帯向けに子育て世帯生活支援特別給付金の支給に1億4千1百万円。■市内経済対策及びワクチン接種勧奨のため、ワクチン接種済み対象者へ飲食補助クーポン券（2千円）

配布に1億9千6百万円。■予備校生を除く、大学生等の学びを支援するため一人3万円の給付金の支給に約9千万円。■その他、避難所の感染症対策品の購入等。

詳細は「広報みさと7月号」、「みさと市議会だより」及び市議会のホームページで。

一般質問（6月9日）を行いました

① 南部開発問題の(1).市長の選挙公約について

選挙公約は投票行動の指針で投票の判断基準となるもの。有権者に政策を約束するもの。

ア.防災センター・道の駅の誘致について

市長は4期目の選挙戦の中、東和地区での辻立ちにおいて、「防災センターの整備、また、道の駅の誘致をしていきたい」と話をされておりました。次に、

イ.地域コミュニティの充実について

市長は当選後の11月の臨時議会の所信表明においては、「地域コミュニティの充実」として、南部地域において防災機能を備えた「にぎわいの拠点となる施設」の整備を図っていくと発言されておりました。そして、

① 南部開発問題の(2).岩野木給食センターの移転について

南部地域拠点整備事業として、鷹野小学校北側周辺、消防署南分署周辺及び栄5丁目交差点付近の開発予算として令和2年度は4千7百万円計上され、特に、栄5丁目の開発については、築45年を経過し、不衛生な環境にある岩野木給食センターの移設と防災倉庫及びコミュニティ施設整備の委託料として、基本設計費2千6百万円、測量費1千万円という高い予算が計上されていたが、地主の反対があったとかで協議が整わなかったようで、令和3年度予算では1千4百万円しか計上されておらず、これらの事業は事実上の頓挫と考えてもよいと思うが、公約はどうなってしまったのか。また、これらの整備事業の中で、特に、岩野木給食センターについては、ネズミによる食中毒の懸念や市内中学生の健康を考えた場合、移転・移設は待ったなしの喫緊の課題となっている。

この移転・移設についてどうお考えか。

● 市長答弁

鷹野小北側周辺については、交通拠点機能の「ドライバーの休憩施設」や「産業振興機能」、「地域交流機能」を。栄5丁目交差点周辺は、複合施設の「防災やコミュニティ機能」の強化を想定。消防署南分署周辺については、将来的な消防機能の拡充を行うこととしている。また、岩野木学校給食センターについては、老朽化が進み、早急な更新が求められているので、災害時の応急給食機能対応を含め、給食センターの再整備に取り組んでまいります。

【所見】 給食センター等の開発予定地が事前にリークされ、先行して開発用地の一角の買収が行われてしまったため、残る土地の買収交渉が暗礁に乗り上げたようだ。不味い。

② 北部開発問題(1).スマートICフル規格の開通、仮称三郷流山橋開通に伴う開発について

常磐道三郷料金所周辺においては、令和5年春に仮称三郷流山橋の開通、令和6年にスマートICのフル規格による開通が予定されており、周辺土地の買い漁りによる地価上昇を見ていると、南部地域に先んじて開発が進みそうな状況になってきている。そこで、

ア.道の駅設置について

スマートICから、また、仮称三郷流山橋から下りて来ると越谷流山線で交差する。その目と鼻の先には他とは違ったデザインの校舎「後谷小学校」がある。北部地域には前間小学校もあり、丹後小学校も含め、北部3校の統合を進め、フル規格化完成のスマートICと流山新橋の開通を機に、北部の地域振興として後谷小学校を道の駅としてもよいのではないか。

先例として、房総の鋸南町保田に小学校を道の駅にした、「道の駅保田小学校」がある。立地がICの目の前であったことから、コミュニティの場を考えていたことから、校舎等の一部をリノベーションして、宿泊施設、温浴施設があり、車中泊もできる「道の駅保田小学校」になったという。体育館を地元の人たちの営業空間にし、教室を利用した食堂、喫茶店、グルメ、レストラン等を備えている。三郷市の北部地域にはスーパーマーケットがないので、地方の道の駅でよく見られる市場機能を持たせ、三郷産の農産品や地産品等の物販 飲食店舗、入浴施設、休憩施設、宿泊施設、高齢者施設等のコミュニティ施設を備え、また、図書館機能、子どもの遊び場等様々考えられる。北部開発の目玉として、観光事業として提案する。

● 市長答弁

三郷料金所スマートインターチェンジ周辺の土地利用については、交通の利便性を活用し、産業拠点の形成を目指し、地元との意見交換や調整を図りながら進めていく。道の駅設置についても、地域の方々と意見交換をする中で、必要に応じ検討してまいりたい。

所見 道の駅について、市長は「南部に」との考えか。でも流通倉庫はもう要らない。

イ.小谷堀橋の架け替え又は歩道の整備について
通学路としての子どもたちや市民の通行の安全のため、過去、一般質問で何度も取り上げられてきているが、これから交通量は格段に増える。安全の為であれば歩道の整備だけで済むが、大

型化、重量化する車両とその通行量に堪えられなくなってくる。橋の架け替えとなると、仮橋の施工から架け替え工事の竣工まで、どんなに急いでも7～8年はかかると思うが、架け替えを急ぐべきと思う。どのようにお考えか。

● 建設部長答弁

小谷堀橋は、昭和30年に建設され、県が管理する橋梁です。今後、周辺の交通量も、変化するものと思われ、老朽化した橋の架け替え整備の必要性も十分に認識しており、毎年、県に対し、架け替え整備を要望しており、県も、用地買収や借地の手続きを進めていると伺っている。

所見 65年間は長い。安全性を求め早く次のステップに移って欲しい。

② 北部開発問題(2).職住接近の「産業をつくる」について

消滅都市にならないためには人口ビジョンをしっかりと捉え、移住促進による定住人口の増加を図っていく必要がある。そのためには、税の不公平とならないよう都市計画税をも徴収できる区画整理事業をしっかりと行い、流通倉庫と異なる本当の工業団地の造成と企業誘致を図り、一方では、農地の保存も重要で、都市近郊農業の振興と三郷ブランド化・6次産業化を図り、観光農業としても推進して行き、市内に住んで、市内で働き、市内で消費する、職住接近の工業・農業の「産業をつ

くる」必要がある。どのようなお考えか。

● 市長答弁

産業拠点において、広域交通の利便性を活かし、本市の経済の支えとなる流通、工業機能を中心とした土地利用の形成を図り、また、三郷市産農作物を市内での消費が促進されるよう、農業経営の継続に向けた施策を推進し、地域経済の活性化につなげて行きたいと考えている。

所見 流通、工業機能の土地利用とは、要は倉庫群のこと。倉庫では能がない。

③ 新型コロナウイルス問題 (1).予防接種について

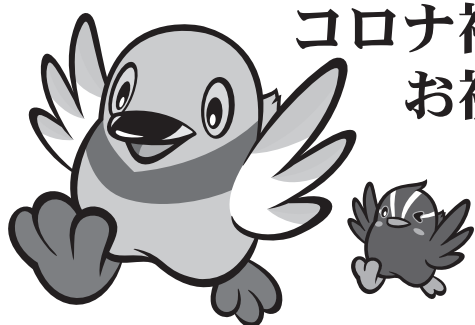
4月23日以降、市内在住の65歳以上の約4万300人に接種券が郵送され、4月30日から予約受付が行われたが、電話やFAXにしか頼れない人は蚊帳の外で、市政への不信感は増幅するばかりであったが、その反省から、改善に改善を重ねた結果、落ち着きを取り戻しつつあるが、まだまだ始まったばかり。吉川市のように、高齢者

から年代別に順に接種する方法をとって、混乱なく接種が進んでいるところもあるので、他の自治体の動向も見極め、また、真似ることも大事ではないかと思う。高齢者の接種が7月で終わるのだろうか。

● スポーツ健康部長答弁

高齢者の方の接種を7月末までに完了することについては、新たに接種を開始する2か所の集団接種会場と市内医療機関における個別接種により、接種を加速させられるものと想定しており、7月末には接種を希望する高齢者のワクチン接種が完了できるよう取り組んでまいります。

所見 接種対策室は早くから立ち上がっていたはず。70歳以上の高齢者は40%の人しかスマホを持っていない。他を真似ることも大事で、そこから新たな発想が生まれる。



コロナ禍終息を
お祈りします。

©三郷市2009

③ 新型コロナウイルス問題(2).タクシー券の配布について

今回のようにワクチン接種会場が勤労者体育館から始まり、そのうち開業医でも接種を受けられるようになるようだが、接種場所へ連れて行ってくれる人がいない、バス便がない、乗り継ぎが悪い等、一人では行動が取れにくい交通弱者にとっては多難な一日となっている。自治体によっては、接種会場へのタクシー券の配布、タクシー利用で500円を超えた部分の自治体負担などもあり、三芳町では、70歳以上を対象に、タクシー代2,000円分を補助する事業を行い、買い物や通院など、接種目的以外の移動にも利用できるという。このように、交通弱者救済のためにも三郷市とし

て一考の余地があったのではないか。

● 市長答弁

三郷市勤労者体育館において集団接種を実施しており、会場にお越しになる際は、家族などによる送迎やご自身で車を運転して来場されるかたが多い一方、バスやタクシーを利用されるかたもおられることは認識している。接種会場につきましては、高齢者のかたが、身近な場所で接種を受けることができるよう、地域の医療機関での個別接種が今年7日から順次開始されています。

【所見】 質問に答えてない。接種を受けない約30%の人へも飲食クーポン券を配るべき。

④ ペイジー(Pay-easy)収納サービスの採用について

令和3年3月31日で、三菱UFJ銀行は口座振替を除き、三郷市の税・料金に係る本・支店窓口での取扱いが終了したことの案内がされていた。また、みずほ銀行は、7月23日からATMの利用を除き三郷支店における法人関係の取扱い業務は松戸支店に移管され、それに伴い、窓口での税や料金に係る納付書による払込みができなくなる。三郷市には都内から事業所を移した方のみずほ銀行の法人口座も多く、市県民税の納付に関しても既に戸惑いが見られる。これらの解決策として、ペイジー収納サービスがある。利用者は、公共料金・税金などを、ペイジー対応の金融機関のATMやインターネットバンキングを利用して支払うことができ、即時に支払い情報(消し込み情報)が市役所等の収納機関に通知されるサービス。利用者にとっては、収納窓口以外にも、ATM、電話、インターネットバンキング等により現金レスでの支払いが可能となり、利用者にとって支払い手段が広がるため、市長の施政方針にもあるように市民サービスの幅が広げられる。ペイジー収納サービスによる利便性の向上の提案をしているのに、収納部署の担当者はやる気がないようだが、市長に採用の可否を伺う。また、市税の納付書には、バーコードが付いており、30万円まではコンビニ等で納付できるという説明であったが、市県民

税の納付書にはバーコードは付いていないが、どう説明するのかを伺う。

● 市長答弁

本市における市税等の納付方法については、金融機関での窓口納付、口座振替、コンビニエンスストアでの納付のほか、「モバイルレジ」、令和元年度からは、「地方税共通納税システム」が利用可能となっています。引き続き、納税者等の利便性の向上の観点から、ペイジー収納サービスを含めた収納チャネルの拡大やキャッシュレス決済の推進に向けて検討してまいります。

● 財務部長答弁

ペイジー導入に向けては、基幹システム及び既存の収納システムの改修、市税等の納付書様式の変更など多くの課題がございます。また、令和5年度からは、国が主導している「地方税共通納税システム」の取り扱い税目及び収納チャネルが拡大される予定でございます。

【所見】 ペイジー導入による納税者の利便性の向上を提案しており、市長も市民サービスの拡幅を訴えているのとは裏腹に、現場はやる気がないので逃げの答弁。法人の税の納付が困るのでペイジー導入を提案しているのに、個人対象の「モバイルレジ」や「地方税共通納税システム」の説明ばかり。施政方針に反する進取の気性に富まない組織の早期変革を望む。



加藤英泉後援会

〒341-0024 三郷市三郷2-1-9

<https://eiizumi.com/>

TEL 048-957-0962

e-mail ktt@ceres.ocn.ne.jp

FAX 048-957-0966